

はにい 表現するということ

平成29年7月18日

「み〜かん〜のは〜なが〜 さ〜いて〜いる〜♪」
授業開始のチャイムが鳴る前から、音楽室では元気な歌声が響いている。

背筋をピンと伸ばし、3拍子のリズムに身体を揺らしながら、のびのびと歌う4年生。
1番を歌い終わった後の間奏が響く中、
「今、みんなには、どんな景色がうかんでいるの？」
と、先生が問いかけると、1秒…2秒…子どもたちの動きが止まる。まっすぐ前を見つめる
目には、様々な景色がうかんでいるようだ。



チャイムが鳴った。
「今日はグループで考えた、音楽に合った身体の動きを発表してもらいます。」
子どもたちは、グループごとに集まり、夢中になって練習を始める。

「きらきらした感じのところは、どうやって表す？」
「手をヒラヒラさせてみようよ。」
「私たちのグループはまとまりがあるから、みんなで流れるように表現してみない？」

一人ひとりが感性を働かせながら、メロディーや強弱、音の重なりを意識しながら、音楽の流れにあった表現を身体の動きで生み出していく。
あちこちから歌が聴こえ、自然と身体が動く。
みんな笑顔だ。

発表の時間。それぞれのグループが思い思いに表現。各グループの良かったところや、工夫したところを、他の子どもたちが次々に手を挙げて発言し、大きな拍手で発表の時間がしめくくられた。



休み時間になり、どこからかまた、あの歌声が聴こえてきた。

『はにい』はコミュニケーションツールです。 みんなで語り合しましょう。
ご意見・ご感想は → inochi4027@pref.kanagawa.jp